

平成20年度

中学生海外派遣事業

～ 報告集 ～

と き 平成20年8月20日～27日

ところ 西オーストラリア州パース近郊、スワン市

稲美町国際交流協会

オーストラリア訪問メンバー（15名）

引率者

	氏名	性別	所属
団長	よねだ ゆうぞう 米田 有三	男	稲美町副町長
副団長 事務局長	まつだ おさむ 松田 修	男	稲美町国際交流協会会長
生徒指導	よしむら ゆうこ 吉村 由子	女	稲美中学校教諭

派遣生

No	氏名	性別	中学校	年組
1	まつおか なかこ 松岡 暢子	女	稲美	3 - 1
2	みかみ ゆきな 三上 悠希奈	女	稲美	3 - 1
3	ささくら えりこ 笹倉 英里子	女	稲美	3 - 2
4	さかもと かな 坂本 夏奈	女	稲美	3 - 4
5	すながわ いく 砂川 郁	女	稲美北	3 - 1
6	まつもと まき 松本 麻希	女	稲美北	3 - 1
7	みずた ゆいな 水田 結菜	女	稲美北	3 - 2
8	よねむら はづき 米村 葉月	女	稲美北	3 - 2
9	やまもと こうへい 山本 航平	男	稲美北	3 - 3
10	きたたに ゆい 北谷 唯衣	女	稲美北	3 - 3
11	あかだ りょう 岡田 凌	男	稲美北	3 - 4
12	ひらた ひより 平田 ひより	女	稲美北	3 - 4

平成20年度 中学生海外派遣事業の経過

- 4月 7日(月) 稲美、稲美北中学校で、3年生全員に募集要項、申込用紙配付
- 4月12日(土) 「応募を検討されている方のための説明会」開催
- 4月21日(月) 募集締め切り
- 4月28日(月) 「中学生海外派遣事業にかかる選考会」実施
- 5月12日(月) 派遣生決定
- 6月14日(土) 「事前研修会1」
- ・ 自己紹介
 - ・ 渡航手続きの説明
 - ・ 20年度派遣事業のスケジュールについて
- 6月30日(月) 「事前研修会2」
- ・ レセプション等の「出し物」について
 - ・ 英語研修(ALTと一緒に)
- 7月10日(木) 「事前研修会3」
- ・ 「みかぐら」の練習
 - ・ 英語研修(ALTと一緒に)
- 7月17日(木) 「事前研修会4」
- ・ 「みかぐら」の練習
 - ・ 英語研修(ALTと一緒に)
- 8月 3日(日) 「事前研修会5」
- ・ 「みかぐら」の練習
 - ・ 英語研修

- 8月14日(木) 「事前研修会6」
- ・ 「よさこいソーラン」の練習
 - ・ 英語研修
 - ・ 旅行のしおり
「保護者説明会」

- 8月18日(月) 「結団式」
「事前研修予備日」
- ・ 「みかぐら」「よさこいソーラン」の練習
 - ・ 英語研修

【平成20年度 中学生海外派遣事業 実施】

8月20日(水) オーストラリアに向け出発

8月21日(木) 「小川所長と会談」「ファームステイ」

8月22日(金) 「ファームステイ」「スワン市長表敬訪問」「ホームステイ」

8月23日(土) 「ホームステイ」

8月24日(日) 「ホームステイ」

8月25日(月) 「学校訪問」「歓迎レセプション」

8月26日(火) 「ホストファミリーとお別れ」「パース市内見学」
日本に向け出発

8月27日(水) 日本に帰国

8月27日(水) 「解団式」

9月 7日(日) 「反省会」

派遣中の活動報告

稲美町国際交流協会会長 松田 修

早朝6時半、私達一行は、保護者の方々・古谷町長・校長先生・役場関係者の見送りを受けて、塚前さん運転のバスにて一路関空へ。関空にて添乗員の福岡さんと合流。トランクを預け・通関を係員より受けて後、乗務員の笑顔に迎えられて機中の人。午前11時チャンギ空港に向けて6時間の飛行。途中、乗務員より飲食の提供。チャンギにて乗り継ぎパースへ5時間の飛行。途中、乗務員より飲食の提供。24時パース着、案内人の松崎さん、運転手のピーターさんと合流、仮寝のホテルへ。

翌朝、小川所長より歓迎の挨拶を頂いた後、ピーターさん運転のバスにてファーガソン農場へ3時間のドライブ。農場主ジョンとローザの出迎え後、ジョンの指導で記念碑を作り丘陵に日本に向けて建立。黄昏の中ジョントラクターに乗りローザの待つ農場へ。「出し物」を披露し大喝采。キャンプファイヤーを囲んで炎に見入る。ジョン特製の茶と合唱。各自3棟に分宿、3日振りの熟睡。

早朝よりジョン指導による乳搾り・トラクター周遊等、昼食にローザ手作りのサンドイッチ。ジョンとローザの笑顔を胸に、再びピーターさん運転のバスにてパース経由でスワンへ。スワン市では笑顔のジェニファー女史の出迎えの後、グレゴリーニ・スワン市長を表敬訪問。オーウェン先生と吉村先生によるホストファミリーとの対面式の後、ホストファミリーと帰宅。いよいよ、それぞれのホームステイが始まった。

2日間のホームステイの後、ガバナー・スターリン高校での交流。校長先生を訪問。交流では、生徒5人と3人がピッコロとギターを演奏。お礼に「御神楽」と「よさこいソーラン」を披露。変り種授業参観では先生の説明。オーウェン先生運転のバスにて野生動物園へ。笑顔の女性ガイドから丁寧な案内。コアラ等にも触れた。一旦帰宅後、歓迎式に臨む。

盛大な歓迎式、交流に賭ける期待が伺える。市長・副市長・議員・小川所長各夫妻、ホストファミリー。宴の最後は、「御神楽・よさこいソーラン」の披露、ハプニングの応援もあって、大いに盛り上がる。余韻を胸に帰途につく。

早朝、スターリン高校に集合。ホストファミリーと別れ、ピーターさんの運転するバスにてパース観光、空港へ。松崎さん、ピーターさんと握手。通関の後、飛行機へ。ふた眠りの後は、関空。塚前さん運転のバスにて稲美町へ。笑顔での故郷到着、心身ともに安堵の瞬間でした。お出会った方々に多謝！

中学生海外派遣事業の記録

英語研修 砂川 郁

この事前研修で、入国から飛行機、ホームステイ先でホストファミリーと話すところまで、いろいろな場面に応じた英語を勉強しました。イラストと日本語をもとに、英語に訳していきました。初めは誰も手を挙げなかったから、先生が順番に当てていったけど、だんだん手を挙げる人が増えてきて、誰かが言ったことに笑い声もおきたりして楽しくなっていました。研修で勉強した単語をホームステイ先で使ったこともあり、勉強しておいて良かったなと思いました。事前研修が無かったら、相手に上手く伝えられないままになっていたのので、教えてくれた先生方に感謝しています。



「出し物」の練習 三上 悠希奈

私は覚えるという事が苦手でした。だから、少しの時間で「みかぐら」なんて難しそうなおどりを覚えられるのだろうか・・・とっていました。だけど、研修会を重ねていくうちに、12人の仲も深まり、少しずつおどりを覚えられるようになりました。学校の休み時間や空いている時間に、友

達と一緒に練習したり、教えあったりしました。



直前に、「よさこい」も、することになって焦りました。でも、みんなで「ここはこうしよう」などと話して決める事ができたので、とても覚えやすくなったし、良い作品になったんじゃないかと思いました。

事前研修で12人の団結力が高まり、良いスタートが切ることができたと思います。

8月18日(月)結団式 岡田 凌

オーストラリアに出発する2日前の8月18日に結団式がありました。

この結団式には、派遣生12名、引率して下さる方々や校長先生など、多くの方が参加していました。この時に一人ひとり決意を述べました。みんないろいろなことを考えているんだなと思いました。

この時に町長さんや、校長先生が話していたことは、オーストラリアに行っても役にたつだろうと思うことばかりでした。

それに、この結団式で今回の海外派遣事業に関係している方々がとても大変なんだ

なということを改めて実感しました。



だから私は、今回オーストラリアに行くのは周りの方々のおかげだという感謝の気持ちを忘れずに派遣生12名がみんな元気にオーストラリアから日本に帰ってこられるといいなと思いました。

8月20日(水) 松本 麻希



「ゴオー」とすごい音がなり、機内がゆれながら私たちは日本を旅立ちました。1人ずつ映画やゲームができる画面がついていて、すごくはしゃいでいました。空がすごくきれいで雲が下にあるのが信じられませんでした。

機内食は、すごく豪華でおいしかったです。シンガポールで乗りかえるとき、パスポートの出し入れが多くて大変でした。ベルトをしていたら「ピピッ」となるので毎回はずしている人が多かったです。12時

間ぐらいでつきました。ついたときはもう夜中の2時ぐらいで、日本とちがってすごく寒かったです。ホテルはすごくきれいで、エレベーターのボタンがちがって海外だなと思いました。お風呂もシャワーで、トイレとつながっていて、友達がシャワーを浴びているとトイレに行けなくて、すごく困りました。これで1日目は終了しました。

8月21日(木) 坂本 夏奈

今日は、朝にホテルで兵庫文化交流センターの小川所長さんのお話を聞きました。日本とオーストラリアの関係なども、たくさん話していただきました。その後、ファームに向かいました。進んでいくうちに、オーストラリアらしい風景になっていきました。ファームに着くと、ご飯を食べて看板づくりにかかりました。図面を自分たちで考えて、ジョンさんに手伝ってもらいながら、協力して素晴らしい看板をつくることができました。ジョンさんが運転するトラクターに乗せてもらって、看板を立てに行きました。矢印の先を稲美町の方角に向けて立てました。



夜は、星を見たりキャンプファイヤーをしたりしました。空には、日本では見られないような南十字星が見えたり、天の川が

見られてとてもきれいでした。

ファームの景色は、どこを見ても美しい景色が広がっていて、最高の1日でした。

8月22日(金) 松岡 暢子



オーストラリア3日目。私たちはファームステイの最後の日に寝坊してしまい、ジョンさんに迷惑をかけてしまいました。

朝、私たちはジョンさんの農場で飼っている動物たちを見せてもらいました。農場には牛や馬、にわとり等、様々な動物がいました。ジョンさんの農場で初めて外国の友達ができました。6才か7才ぐらいの女の子のアレックスとチーズンという子です。私たちと同じ年ぐらいの男の子の兄弟とも仲良くなれました。

午前中しか遊べなかったけど、仲良くできて私たちの緊張もいつの間にかなくなっていました。

午後はホームステイ先の人との対面でした。みんな自分の名前が呼ばれると立ちあがり、ホームステイ先の人と明るく話していました。私は1人暮らしの女の子の所だったので全く笑えませんでした。2人で家に帰り少しだけ話した後、すぐに寝る事になり、私のホームステイ生活が始まりました。

8月23日(土) 水田 結菜

23日は「どこに行くのだろう」ととても楽しみにしていました。キャルシーが英語で説明してくれましたが、よく聞き取れませんでした。しかし、聞き取れた単語を言い、質問して やっとお母さんの友達の家に泊まるということがわかりました。

家を出発し、スーパーに寄ってから友達の家へ。10人ほどいましたが、みんな初対面なのにすごく親切にしてくれました。私はキャルシー、メイゲンと一緒に近くの学校へ行き、いろいろ説明してもらってたくさん遊び、家でお昼ご飯。その後は、DVDを見ましたが英語だったので難しかったです。

それから、広い庭にテントを張り、そこで寝ることに…。冬なのでとても寒かったです。しかし、夜空はとてもきれいで、手をのばすと星がとれそうぐらい近く感じました。テントの中では、キャルシー、メイゲン、友達のストーンと共におしゃべりをしました。すごく良い英語の勉強になって、とても楽しい時間を過ごせました。



8月24日(日) 笹倉 英里子



今日は、朝からジャスミンとジャスミンのお母さんと一緒に、パースへ出かけました。最初に行った「ベルタワー」は、一番高い所まで行き、そこからパースの景色を見ました。日本とは違い、ビルがたくさん建っている間にも緑の多い公園があり、きれいでした。

それから次に、「キングスパーク」へ行きました。展望台から見る景色は、ベルタワーと違い、これもまたきれいでした。そのあと買い物をしました。見るものすべてが新鮮でとても迷いましたが、家族の分をいくつか買うことができました。

家に帰った後、ケーキを作ったり、友達と遊んだり、とてもいろいろなことをしました。最初はあまりうまく話せなかったけど、何回か会話をすることができました。今日、いろいろな所に連れていってくれたホストファミリーにとっても感謝しています。本当に楽しかったです。

8月25日(月) 平田 ひより

この日は朝からガバナースターリン高校を訪問しました。とにかく広い！授業で細かく専門的なことまで教えていてとてもびっくりしました。クラリネットやギターの

演奏もしてくれてとても楽しかったです。

その後は動物園に行き、白いカンガルーを見ました。初めて見たけどかわいかったです。

それから家に帰ってスワン市のレセプションに行きました。料理もとてもおいしかったです。食事のあとはいよいよ出し物です。みかぐらはあと半分ぐらいというところで音が止まってしまうはどうするのかな？って思っていたけど、1人が歌い出すとみんなも声を出して最後までやることができました。よさこいソーランも途中で音が止まってしまうと今度もみんなで歌いながらやりました。その分、終わったあとはとても大きな拍手をもらえてとてもうれしかったです。そして、扇子のまわし方を教えたり写真をとったりしました。とっても楽しい1日でした。



8月26日(火) 山本 航平

26日の朝、目が覚めるとすごく寂しい気分になった。今日は、ホストファミリーとの別れの日だったから。8時30分に学校へ到着すると、やはりみんなも寂しそうな顔をしていた。ぼくは寂しさをまぎらわそうと、ホストファミリーの人達とたくさん写真を撮りました。そして、別れのあい

さつをしました。“ See you again ” それし
か言えませんでした。そしてバスに乗りま
した。みんなが見えなくなるまで手を振り
ました。



その後、バスに乗ってキングスパークへ
行きました。キレイな景色を眺めました。

次に、パース市へ行きました。そして市
内では、日本にいる家族や友達へお土産を
買いました。とてもたくさんの店が並んで
いて買い物はとても楽しかったです。

そして、いよいよオーストラリアともお
別れです。パース国際空港から飛行機に乗
りました。そしてあっという間にチャンギ
空港へ着き、この長い1日を終えました。

8月27日(水) 米村 葉月

オーストラリアから帰国した27日は、
みんなまだオーストラリアに居たかったと
言っていました。私もあと一週間だけでも
オーストラリアに居れたらいいなと思いま
した。

27日の解団式では、本当に日本に帰っ
てきたんだなぁと思いました。オーストラ
リアでは、生活・文化はもちろん、言葉の
壁を乗り越えて、心の交流を深めることが
できました。解団式でも、一人一言のとき
に、みんな言葉が違っていても、自分の知
っている単語をがんばって使ったり、電子

辞書を上手く使ったりすると伝わるし、ジ
ェスチャーだけでも理解してくれる事がわ
かったと言っていました。私は最初、本当
に英会話ができなかつたら不安だなぁと思
っていたけど、実際オーストラリアに着い
てしゃべってみると不安じゃなくなったし
解団式では達成感に変わっていました。

今回、海外派遣事業に参加できて、本当
に良かったと思いました。



帰国後 北谷 唯衣

私はこの一週間、本当に短かったなぁと
思いました。家に帰ってくると、やっぱり
向こうの生活とは文化が違うんだなぁと感
じました。大自然の中で動物たちとふれあ
い生活できたことや、ホストファミリーと
の交流の中でいろんなことを学び感じてき
ました。

向こうに居る時は「もっとオーストラリ
アに居たいなぁ」なんて思っていたけれど、
家に帰ってくると、やっぱり自分の家が一
番いいなぁと思います。お母さんやお父さ
ん、家族みんなに向こうで体験したすごく
幸せだった時間のことを話しました。

本当にこの一週間、たくさんのことをし
ました。写真などを見ると、もうなつかし
く思えます。もう1回行ってみたいと思う
気持ちがすごく強くなりました。

文化の違う中で生活することは、すこしとまどいもありながら体験できたことは、私にとって本当に良かったと思える一週間でした。





オーストラリアへ行きたい！と思ったのは中学1年生の時でした。

体育館のステージで3年生の人がオーストラリアで体験したことを色々話していました。それを聞いてとても興味がわきました。

2年生になっても同じ様に前で3年生の人が話してくれました。話の内容が聞いていても楽しそうだったので、応募しました。

オーストラリアではファームステイとホームステイをしました。

私はファームが一番楽しみだったのでファームに着いた時からドキドキワクワクで心臓がうるさかったです。(笑)

ファームで一番にしたことは看板造りです。

看板の表面をみがいてキレイにしたりするところから始めたので思っていたよりも大変でした。

看板の文字は、稲美中と稲美北中にわかれて別々の文字を入れる事に決まりました。

私達稲美中の生徒は4人だったのですぐに決まりました。入れた文字は『INAMI JH2008』と入れました。

4人で順番に文字を入れていきました。失敗して少しぐちゃぐちゃになったところもでき

たけど、なんとか完成しました。北中の人作業をしている時はトランポリンやバスケットをして遊びました。

ファームのトランポリンは2メートルぐらいまで跳ねて、初めて乗った時はとても怖かったです。でもやっているうちにすごく楽しくなって、オーストラリアと一緒に来てくださった日本旅行会社の福岡さんと2人で勝負をしたりして楽しみました。

トランポリンをしている時にアレックスという6才ぐらいの女の子と仲良くなれました。アレックスにうさぎをさわらせてもらったり、バスケットを一緒にしたりして遊びました。

北中の人文字入れが終わったので看板をたてに行きました。

穴をほるのはとてもしんどくて手が痛くなりました。ほっている途中に石や木の根っこなどでなかなか思った通りにはほれませんでした。でも、ジョンさんが手伝ってくださったので、夜までには終わりました。

夜のごはんはとてもおいしかったです。

ごはんを食べ終えてから、みかぐらとよさこいソーランを披露しました。どちらもずっと練習していた踊りなので、成功した時は安心しました。

次の日、私達はホームステイ先の人と対面しました。

対面の時はすごくドキドキしました。

私は1人暮らしの人の家に1人で行くことになりました。対面した時からあまりしゃべらない人だったので、家に着いても会話があまりなくて少なさみしかったです。

でもせっかく来たから！と思い1人で家の周りを散歩することにして、歩いていると2人の女の子に話しかけられて少しあせりました。辞書を使って片言だったけどがんばって話すと、女の子が案内をしてくれると言ってくれたので3人で遊びながら町を散歩しました。ホームステイで友達ができるなんて思ってなかったので、とてもうれしかったです。

ホームステイ先の人に約3日お世話になり、久しぶりにみんなとの行動でうれしかったです。自由時間は買い物をして楽しみました。

買い物をしていると日本人に会い、久しぶりに日本人みたなぁと思って笑ってしまいました。こんな感じでみんな楽しく過ごしました。(笑)

日本へ帰る頃にはみんな疲れていて、バスの中はすごく静かでした。

日本ではあまりできない貴重な体験がこの一週間でできました。

この事業に関わり、私達をサポートして下さった方々、本当にありがとうございました。

然徒と・・・

松岡 利架

「ホストファミリーが替わった！」娘からの電話。出発前々日の夕方です。もう荷作りも済んだ。ホストファミリーへのおみやげもOK・・・の状態でした。受け入れ先は・・・未定。この状況で初めての海外旅行に行かせるの？！本人含め家族一同パニックです。

何年も前から、娘は「中3になったらオーストラリアに行かせてよ」を連呼していました。やっと願がなつてのオーストラリア研修です。もちろん親として「この時期にいいのだろうか・・・」一抹の不安を抱えて申込書にサインしたのでした。

本当にいいのだろうか・・・大丈夫だろうか。出発前からのこのハプニング。娘はどうきり抜けるのだろうか？それでも、娘は雄々しく「何とかなるさ」「せっかく何年越の願いや」と元気に旅立って行きました。

毎日毎日役場からのメールを期待と不安でチェック。これは有難かったです。「とにかく元気そうだ」「なんとか無事だったんだ」と。家族中が「今日は帰る日だ！」を合言葉のように交わして、いざ役場へお迎え！

おや！わりとあっさり。想像していた「お母さん！」と抱きつかれる事もなく解団式。どうも感動がないゾ！おかしい！

案の定ホームステイは期待が大きすぎショックがあったようです。しかし、ファームステイ観光と「行ってよかった」の一言からあとは洪水のようなおみやげ話、感想等々。

娘はこの研修の良かった所、悪かった所、反省すべき所を話してくれました。「しっかりしてるじゃない」出発前とはどこか大人びてみえました。1人でピンチも切り抜け自信もできたようです。電辞書片手に1人で散歩しながら近所の子供達と遊んだり日本では持てない時間も持っていました。外見は変わっていませんが、本質に何か「親が心配しなくても・・・」といった安心感が持てる人間に成長して帰ってきてくれました。行かせてよかったです。最後にお世話になった皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



私は、英語が苦手を通りこして嫌いでした。だから、学校であった派遣された先輩達の発表も、あまり真剣に聞いてはいませんでした。

しかし、今回の中学生海外派遣事業に参加して良かったと思いました。参加をすすめてくれたお母さんや、団長をはじめこの事業にかかわってくださった多くの人に感謝したいです。

家族の中でも私が初めての海外旅行で、準備をするだけでも大変でした。それに加えて、事前研修として出し物の練習や英語研修などと、これまでにない忙しさでした。しかし、12人の仲間ともしだいに打ち解け、団結力も高まりいいスタートが切れました。

そして、出発の日。私は、大丈夫か？という不安の気持ちで一杯でした。初めての空港での手荷物検査で、少しハプニングがあったけれど、無事に飛行機に乗る事ができました。空から見る日本はとても小さくて、世界の広さを実感しました。

シンガポールを經由してオーストラリアへ到着！周りはもちろん英語ばかり。(当たり前だけど)少し焦りました。そしてそのままホテルへ向かいました。

次の日は、まず兵庫文化交流センターの小川所長のお話を聞きました。そこで日本とオーストラリアの関係など、多くの事を学びました。そしてバスでファーガソン・ファーム

へ。行く途中では広大な土地に、牛や馬が放し飼いされていて、さすがオーストラリア！と思いました。オーナーのジョンさんは、とてもおもしろい人でした。そして、大自然の見える所で食べるご飯は特別おいしかったです。その夜に見た、夜空にちりばめられた星にとっても感動しました。南十字星や木星、天の川など、見た事もない数のきれいな星空でした。

次の日、みんなで大寝坊してしまい、迷惑をかけてしまいました。驚きました。

そして、いよいよホストファミリーとの対面。とても緊張しましたが、2人でのホームステイであった事と、とても優しく接してくれたので少し安心しました。

ホストファミリーのお母さんが、とてつもないフットボール好きで、毎日フットボールを見ていました。そして晩ご飯が終わると、決まってホラー映画を見ました。外国のホラー映画はえげつなかったです（色んな意味で）。だけど、普通では体験できない多くの事ができて、とても良かったです。

スワン市主催のレセプションでは、とても盛り上がりました。出し物の時にCDが止まってしまって、みんなで歌いながらおどるという形になったけれど、なんとか成功しました。みなさんに喜んで頂けたみたいで、とても嬉しかったです。

別れの日、Thank you！と連呼しながらハグをしました。とても寂しかったです。いつか絶対に、もっと英語を学んでまた会いに来たいと思いました。

日本に帰ってきた時は、湯船に早くつかりたいという気持ちで一杯でした。

オーストラリアに行って、私は英語をもっと勉強したいと思いました。そして、英語が少し好きになりました。

この事業で学んだ事を、これからの生活に活かしていきたいと思います。

本当に楽しくて、充実した8日間、ありがとうございました。

保護者の目から見た派遣事業

中学生海外派遣事業に参加させて

三上 早苗

数年前に広報で中学生海外派遣事業の事を知った時から、娘にも参加して欲しいと密かに望んでいました。

運良く参加させていただく事に決まりましたが、勉強・部活・生徒会・海外派遣の講習会・ホームステイの準備と毎日が慌ただしく過ぎて行く中で、いつまでたってもテンションの低い娘・・・。

英語に自信がない娘にとって荷が重すぎたのかなと心配と不安の中、娘は旅立って行きました。

そんな母の思いとは裏腹に、オーストラリアでの 8 日間を満喫したようです。仲の良い友達と同じファミリーのお宅にホームステイした事や、ファミリーに温かく迎え入れていただいた事もあり、心細い思いをせず楽しく過ごせたようです。

何十枚と撮って来た写真を 1 枚ずつ説明してくれる顔は輝いていて、本当に充実した 8 日間を過ごしてきたんだと改めて思いました。

「参加して良かった。価値ある 8 日間だった。めちゃ楽しかった。英会話なんて Yes と No でなんとかなるもんさっ。」と笑って話す娘を見て、日本では決して味わう事のできない貴重な経験をし、一回りも二回りも成長した姿に頼もしく思えました。

色々心配もありましたが、参加させて本当に良かったと思えました。最後にこの度お世話いただきました全ての方々に感謝とお礼を申し上げます。

ありがとうございました。



成長できた8日間

笹倉 英里子



最初、私はこの派遣事業に不安でいっぱいでした。一番の不安は、英語が相手にきちんと伝わるかということです。オーストラリアに行くまでに、何回か事前研修で英語の練習をする機会がありました。それでもまだ、自分の英語が伝わるか不安でした。この不安をふきとばしてくれたのは、行きの飛行機の中です。関西空港からシンガポールのチャンギ空港までは日本人もいましたが、チャンギ空港からオーストラリアまではほとんど日本人はいませんでした。周りから聞こえてくるのも英語、看板に書いてある文字も英語と、私たちにとって、とても新鮮なものでした。もちろん私達も英語で話さなくてははいけません。そして私が初めて英語で応答したのが飛行機の中でした。客室乗務員さんに、「何か飲み物はいりませんか。」と英語で聞かれたので、「Applejuce please」と言うと、本当にアップルジュースが出てきたので、本当に少しの言葉だけど、自分の英語が通じたということに感動しました。そこで、不安もふきとんでしまいました。

2日目と3日目はファームステイをしました。敷地が広すぎてとても驚きました。ファームステイで一番感動したのは、夜見た星空です。車の音も何もしない静かな空気のきれいな所で見ると満天の星空は、すいこまれそうになるくらい、とてもきれいでした。自然いっぱいので過ごした2日間は、とても心に残りました。

さて、いよいよホームステイです。スワン市に向けて走るバスの中で、ホストファミリー

ーはどんな人だろうとか、どんな生活をするんだろうなどの期待や、きちんと会話できるだろうかという不安で頭がいっぱいでした。そしてバスが着いて、市長さんのあいさつなどを終えた後、いよいよホストファミリーの発表。友達のホストファミリーが次々に発表されてついに自分の番。ホストファミリーに会った時、私は緊張してあまり話せませんでしたが、ホストファミリーの家に向かっている間、いろいろと話しかけてもらい、緊張がとけました。ホームステイ2日目、3日目は、ホストファミリーにいろいろな所へ観光や買い物に連れていってもらいました。見るもの全てが新鮮で、迷うこともあったけど、とても楽しい日を過ごすことができました。

ホームステイ4日目はガバナースターリン高校見学をしました。日本とは全く違った授業風景にとっても驚きました。そして、動物園。カンガルーやコアラなどのオーストラリアでしか見ることのできない動物を見られて良かったです。そしてその日の夜のレセプション。出し物のみかぐらとよさこいソーランでは、途中で曲が止まるというハプニングがありましたが、みんなで協力して乗り切ることができました。ホストファミリーの人達もとても喜んでくれていたみたいでとても良かったです。

7日目、8日目は買い物をしてから、日本へ出発です。この8日間、とても自分が成長したように思います。本当にかげがえのない8日間でした。ホストファミリーと手紙で連絡を取り合ったりして、まだまだもっと成長していけたらいいと思います。またもう一度オーストラリア(パース)へ行きたいです。

保護者の目から見た派遣事業

中学生海外派遣事業に参加させて

笹倉 雅子

稲美町役場に戻ってきたときの、娘の生きいきした顔を見てホッと安心しました。

当初、海外派遣事業に参加したいと言った時は、真剣にとりあわず、「行きたいんだっただら申し込んだら」と生返事をしたものの、いざ行くことが決まったときは「見知らぬ場所、言葉も通じない人と数日とはいえ本当に過ごせるのだろうか」といろいろと心配でした。

帰ってきてからステイ先の出来事を尋ねると、ホストファミリーの方に本当によくしていただき、生活に困ることがなかったようです。とくに日常の会話は聞きとり易いように話していただいたようです。

また、ステイ先では色々な所に連れていただき、日本とは違う文化・習慣にふれ本当によい思い出になったようです。

今まで自分から進んで思ったことを主張することがあまりなかった娘ですが、この海外派遣事業がきっかけで、自分の思いを相手に伝えることの「大事さ・大切さ」を学んだように思えます。日本で暑い夏休みをダラダラ過ごしていたのでは、到底あじわえない貴重な体験を得ることができたようです。これから先の生活において、何事にも積極的に取り組んでいってくれればと、親として本当に思います。

海外派遣という貴重な体験に参加させていただき有難うございました。この派遣にあたってお世話いただいた方々にお礼申し上げます。



今年の夏は、私にとってかけがえのないものになりました。初めて行く海外ということもあるけれど、ホームステイという貴重な体験をさせていただきました。事前研修の段階から、ずっとドキドキしていました。うまく話すことができるかな？という不安もあったけど、実際に行ってみると引率者の方々にサポートもしていただきましたが、英語で話したりすることもできました。

ファームでは、私たちがオーストラリアに来たということを残す看板をつくりました。図案を考えて、その図案の通りに作ることはとても大変だったけど、うまく作ることができて、立派な看板ができあがりました。そして、その看板を立てに行くために、トラクターに乗って移動しました。ファームはとても広くて、どこを見ても美しい景色でした。看板を立て終わると、みんなで記念撮影をしました。立派な看板ができあがってよかったです。夜にはキャンプファイヤーをしました。とても寒い中でしたが、炎がとても暖かくて楽しく過ごすことができました。

次の日も、少しだけ牛の乳しぼりなどをしてから、ファームを後にしました。ファームからスワン市の市役所に移動するときは、期待もあったけど不安のほうが大きかったと思います。スワン市役所に入って、たくさんの方がいて、どの家族がホストファミリーかな

と思いました。私は三上さんと同じ家にホームステイすることになっていて、名前を呼ばれたときはドキッとしたけど、ホストファミリーに会ってみると、とても優しい人たちで正直言ってホッとしました。ホストファミリーの家に着くと、部屋に案内してもらいました。私と三上さんが同じ部屋で、お土産も用意してくださっていました。家の中を案内してもらったりした後、私たちの持ってきたお土産を渡しました。私たちが英語で伝えられず困っていると、「英語で紹介する日本」という本を出してくれました。とても助かりました。

土曜日は、ショッピングに連れていってもらいました。日本ではそう簡単にはないような大きさでした。いろいろな種類の店があつたりして、見ているだけでとても楽しかったです。

日曜日は、電車によってパース市内へ行きました。パース市内は、昨日のショッピングセンターと比較のしようがないくらいの店がありました。ゲームやDVDを売っている店もたくさんあり、日本のゲームやアニメのDVDがたくさんあって驚きました。漫画もあって、中身が全部英訳されていて、少しかっこいいなと思いました。夜にはフィッシュ&チップスという料理を食べました。とてもおいしかったです。

スワン市のレセプションでは、練習してきた「みかぐら」と「よさこいソーラン」を踊りました。途中で曲がとまってしまうというハプニングもあつたけど、自分たちで歌いながら踊るといっても楽しかったです。他のホストファミリーと交流もできてとても楽しい夜になりました。

この8日間を通して、一生懸命に伝えようとするれば相手も一生懸命に答えようとしてくれることを改めて感じました。ホームステイ先の家族も、私達が困っていると優しい英語で話してくれたりとさまざまな工夫をしてくれました。シンガポール空港で買い物をしようとして、お金の使い方がわからなかったときは、お店の人が教えてくれました。そして、私は様々な人たちに支えられて、派遣に参加できたんだと感じました。今回の派遣を企画して下さった稲美町の役員の方たちや、日本旅行のみなさんのおかげだと思っています。ありがとうございました。

また、機会があれば外国の方々ともふれあつたり、ホームステイできたらいいなと思います。

保護者の目から見た派遣事業

派遣事業に参加させて

坂本 みどり

この事業に参加させようと思ったのは、いろんなことを体験させてやりたいということからでした。日本語が通じない国で、自分の思っていること、やりたいことを相手にわかってもらうためにはどうすればよいか、又家族と離れ、同じ立場のみんなと協力しながらの協同作業を通じて得られるものが多いのではないかという考えからでした。本人自身は最初はあまり乗り気ではありませんでしたが、面接、事前研修を重ねるうちに、だんだんとみんなと打ち解け、本気モードになってきたように見受けられました。

オーストラリアでのいろんな体験を帰ってきてから聞かせてもらい、日本との文化やいろんな環境のちがいなど、とまどったことが多かったようですが、いい経験になったようです。買い物に行ったときのことをうれしそうに教えてくれました。何とか英語が通じたようで、店員さんにやさしくしてもらったようで、いい経験になったなあと感じました。

又、ホストファミリーの家族のみなさんにはよくしてもらったようです。家から持っていったインスタントのみそ汁をみなさんに飲んでもらったりして感想をきいたりして、何とか会話は聞きとれたと言っていました。それに対しての自分の表現は難しかったようです。

今回の派遣事業において、準備、研修において指導頂いたスタッフの皆様、現地に引率頂いた方々に心より御礼申し上げますとともに、この海外派遣事業がこれからも継続し、たくさんの人にこの貴重な体験をしに行ってもらいたいと思います。ありがとうございました。



楽しかった8日間

砂川 郁



私はこの事業に参加したいとずっと思っていたので、とても楽しみにしていました。

1日目は、朝早く集合して、バスと飛行機でずっと移動だったので、ほとんど寝ていました。夜遅くにパース空港に着き、ガイドさんと一緒にホテルまで向かいました。

ファームステイでは、その広さにびっくりしました。寝たりした部屋とご飯を食べる所も結構離れていたし、活動する所にトラクターに乗って行ったりしました。今年来たという跡を残すため、稲美町の方角を指したサインを建てました。字を刻んだり穴を掘ったりして、大変だったけど楽しかったです。

次の日は、お昼ご飯を食べたあと、ホストファミリーに会うためにスワン市に向かいました。ファームの人と別れるのはちょっと寂しかったけど、明るく別れました。ホストファミリーは6人家族で、7才や9才の子でも英語がペラペラで、さすがだなあと思いました。

次の日は、ニキータと電車に乗って買い物に行きました。ニキータと他のホストファミリーの仲が良くて、3家族で行きました。日本人が5人もいたので、あまりオーストラリアって感じがしませんでした。でも楽しかったです。オーストラリアの景色は、日本と全然違っていたので、信号や公衆電話などたくさん写真を撮りました。寿司屋があって、お昼ご飯はそこで買いました。巻き寿司が多く、生の魚はあんまりありませんでした。1家

族とは途中で別れて、もう1つの家族とパースで買い物をしました。私は英語の絵本を買いました。それから家に帰り、眠たかったのですぐ寝ました。

次の日は、友達の家でパーティーをして、馬に乗りました。乗る時が難しかったけど、乗ったら楽しかったです。

次の日はレセプションで、ホストファミリーと食事をして、「みかぐら」と「よさこいソーラン」を踊りました。2曲とも途中で曲が止まってしまう戸惑いでしたが、みんなで歌いながら最後までやりました。見ている人たちも手拍子をしてくれてうれしかったです。扇子のまわし方を教えて、はちまきや扇子はホストファミリーにあげました。

次の日、ホストファミリーと別れるのはとても寂しかったけど、笑顔で手を振りました。帰りの飛行機もずっと寝ていました。

8日間、新しい発見がいっぱいあってとても楽しかったです。初めてのことばかりで、困ることもあったけど、いろんな人に助けてもらって楽しい旅にすることができました。行かせてくれた家族や応援してくれた友達にも感謝したいです。

保護者の目から見た派遣事業

海外派遣事業に参加させて

砂川 絵美

中学1年の頃から英語に興味があり、派遣事業にも是非参加したいと懇願していた娘が、自分から言い出した事だから不安や心配な様子を全く見せず、出発当日も「ちょっとそこまで・・・」という雰囲気を出かけていきました。

雄大なオーストラリアの地で心も広くなったのか、もともと動物嫌いな娘が犬や猫を抱っこしたり、馬を引いたり、カンガルーにえさをやったりする様子を聞き、驚いたりもしました。

もともとは英語を学ぶという事が目的のこの度の事業でしたが、終わってみると、楽しいだけの旅行ではなく、友達との友情を深め、まわりの人への感謝の気持ちを持ち、動物への愛情を持つなど、たくさんの事を学んだ旅行だったと思います。

お世話になったホストファミリーのご家族と、派遣事業団の方々には大変感謝しています。本当にありがとうございました。



私は、この海外派遣事業で初めて海外へ行きました。私が海外に行くのに不安だったのは、一番に飛行機事故でした。飛行機に乗ると1人ずつ映画やゲームのできる画面がついていて豪華だなと思いました。

「ゴォー！」と機内がゆれて外を見ると、ものすごいスピードで「フワッ」と浮いて空を飛びました。こんな大きなものが飛ぶんだと不思議に思いました。窓から下を見ると雲が下にあってきれいかったです。シンガポールについたとき、夜景がすごくきれいかったです。オーストラリアについたのは夜中の2時ぐらいでした。フワフワなベットでよく眠れました。

翌日、ファームステイでファームについたとき、すごくきれいで、土は赤く、木は高くて緑が多く、日本と全然ちがってビックリしました。木にローマ字で INAKITA 2008 とほりました。私は「INAMIKITA」のTをほりました。なかなかできなかったけど、いい物ができてよかったです。その木をたてているときにカンガルーを探しに行ったら、たくさん見つけられて、初めて自分の目で見られてうれしかったです。木にペンキをぬっていると、ファームのジョンさんが木の上に立ってバランスをくずして私の頭をけたのが、すごく痛かったです。ファームには動物がたくさんいて、ポニーやエミュや牛、うさぎ、羊がいて、オーストラリアならではのエミュに、にんじんをあげて、すごくかわいかったです。

す。夜にはみかぐらをして、せまかったけど成功してよかったです。外に出ると目の前から星が広がっていて、日本では見たことがなかったです。日本では星を探すけど、オーストラリアでは、そんなことしなくてもたくさんの星があるのがわかりました。天の川や木星、銀河まで見ることができました。キャンプファイヤーもしました。部屋にかえると、私たちの部屋だけエアコンがなくてすごく寒かったので、2人で1つのベットに寝て寒さをしのぎました。朝は自由時間があって、そのときに、アレックス、エマ、エイヴァと知りあいました。3人とも小さくてかわいかったです。バスケットをしていると、チーズン、ジェームス、ハリーと知りあって一緒にあそびました。すごく楽しかったです。

ファームステイが終わって、ホストファミリーと会うとき、すごく緊張しました。私は4人家族のところ、家に行くと13歳の男の子が出てきて、あいさつをしました。初日は、何をしゃべったらいいかわからなくて、ずっとクリスとゲームをしていました。2日目はキングスパーク、ビーチにいろいろ連れていってもらいました。キングスパークはすごくきれいで、ゴミなんて1つも落ちていませんでした。ビーチは砂がすごくサラサラで、海の色もすきとおった緑や青色ですごくきれかったです。夜はタイ料理を食べに行きました。3日目は、16才の女の子ジェスとジェスの友達2人でパース市に行きました。大きな店がたくさんあって、何から見ようか困りました。

夜はレセプションで、みかぐらやよさこいソーランをしました。途中で曲が止まったけど、自分達でうたってもっと盛り上がりました。

ガバナースターリン高校は、レンガできていて色がきれかったです。

ホストファミリーと別れるとき、すごく悲しくて泣いてしまいました。でも私はしっかり「See you again」と言いました。

私は今回オーストラリアに行って、いい体験ができたし、心の交流が一番できたと思います。向こうの文化も学べたし、日本の文化も伝えられたと思います。この一週間は私にとってすごく英語に自信が持てたと思います。単語だけでも伝わるんだと思いました。本当にありがとうございました。

保護者の目から見た派遣事業

海外派遣に参加させていただいて

松本 佳子

中学生海外派遣事業に参加させていただきありがとうございました。参加のきっかけは本人の強い希望でした。「行きたい、絶対に行きたい」と言う声をききました。本人の行きたいという思いを大切にしたいと思い賛成しました。積極的に海外派遣に取り組む姿には本当に驚かされました。毎日の日常生活にもこれくらい希望を持ち続けてくれればと思ってしまうくらいはりきっていたと思います。誰も知らない海外で大変心配もしましたが、新しいことを体験するのも子供の為には大切なことだと私自身にも言いきかせ、娘を送り出しました。

帰って来るまでは本当に毎日心配で、役場からのメールがとても楽しみでした。オーストラリアから帰宅。久しぶりに会う娘はとても元気で、自宅に帰ってからも話が止まらず本当に楽しく良い経験をさせていただいたんだと思い、感謝でいっぱいです。これから受験をひかえ大変な時だと思いますが、海外派遣での経験をいかし、この先も色々なことを乗りきって行ってほしいと思います。このような機会をあたえていただきありがとうございました。多くの方々が後に続いていってくださるよう願います。

本当に有り難うございました。



絶対忘れられない時間

水田 結菜



「もう1回行きたい!!」関西空港に着いた瞬間、そう思いました。それぐらい楽しい一週間でした。

1日目はバスや飛行機など移動ばかりでした。向こうについてもあまり実感がなく、早く明日になって欲しいな、とずっと思っていました。

2日目は、まず小川所長さんのお話を聞いて、いよいよバンバリーへ。向こうに着くとお昼ご飯。食べたことのないものもたくさんありましたが、どれもおいしかったです。

農場体験では、稲美の看板を作って立てたり、トランポリンで遊んだり、ポニーと遊んだりしました。野生のカンガルーも見られたのですが、走るのが速すぎて写真を撮ることができませんでした。夕ご飯の時に御神楽・よさこいソーランを披露しました。その後、扇子のまわし方を教えてあげたりしました。夜は星を見たりキャンプファイヤーをしたりしました。星は日本で見られないものばかりでとてもきれいでした。キャンプファイヤーでは billy tea が凄く独特な味がしました。

次の日はたくさんの子供が来ていてさらに楽しかったです。ポニーに乗ったり、池に行ったり・・・。その後の自由時間はオーストラリアの三人兄弟とバスケットをしたり、トランポリンをしたり、簡単な英語でしゃべったり。みんながいたので積極的にしゃべることも

できたし、日本語もしゃべっていたのであまりオーストラリアという気がしませんでした。

ファームで最後のご飯を食べてスワン市へ。一番楽しみにしていたホームステイは急遽ホームステイ先が変わったりもしましたが、みんなと別れて家へ。家に着くと英語ばかりで「どうしょ……。会話できるのかな。」とかなり不安になりました。でも、頑張ってみると、なんとかしゃべることができました。通じにくいけど、その分通じたときはかなり嬉しかったです。

土曜日は、Kelsey がなにをやるか説明してくれたのですが、早すぎてなかなか聞き取れませんでした。それでも、聞き取れた単語で質問してみると、やっとお母さんの仕事友達の家に泊まるということがわかりました。家を出発すると、途中で店に寄ったりしながら、1時間ぐらい車の中。見える景色は動物がたくさんいてびっくりしてばかりでした。向こうに着くと友達が10人ぐらいいて「余計話通じひんやん！」とっていました。でも、初対面なのにすごく親しく接してくれて、すぐになれることができました。その後、Kelsey と Megan と近くの学校へ行き、色々教えてもらったり、遊具で遊んだりしました。運動場が芝生で、裸足で走り回ったりしてとても楽しかったです。家に帰るとテントを立てている、なんでやろうと思っていると、今日はここで寝るよと言われてびっくりしました。冬なのにテントで寝るなんて初めてだったので楽しみ半分びっくり半分でした。夜はみんなでDVDを見ましたが、英語で全然分からなかったです。でも「理解できない」というと、字幕（英語の）を出してくれたので、辞書で調べながらなんとか内容が分かって日本語で見るより楽しかったです。テントで寝るのはかなり寒かったです。なのにみんなは慣れているのか、半袖で寝ている人もいてびっくりしました。

次の日3時ぐらいに家に帰り、ショッピングに連れて行ってもらいました。人がいっぱい、はぐれたらどうしようとそればかり考えていました。お店には「Japanese food 寿司」という看板があって、久しぶりに日本語を見られてちょっと嬉しかったです。家に帰って晩ご飯を食べながら、オリンピックの閉幕がTVでやっていて、その話で凄く盛り上がりました。金曜日には「会話できひんかったらどうしよう。」と思っていたのに、予想以上に楽しく過ごせてとても短かったと思いました。

次の日はガバナースターリン高校までスクールバスで行きました。初めて乗りましたが、Kelsey の友達が「Hello！」とか色々話しかけてきてくれたので楽しかったし、英語が通じたのもよかったです。高校に着いてみんなと出会って、みんなもホームステイが楽しかったと言っていたので、みんな一緒なんだなと思いました。ガバナースターリン高校の吹奏楽部が色々演奏してくれて、私たちも出し物をしていい交流ができたと思います。その後の動物園ではカンガルーやコアラ、ウォンバットにも触れました。夜のレセプションでは、スワン市の市長さんとも会話することができました。出し物をするのはすごく緊張しました。御神楽がはじまると、みんな見てくれていたので嬉しかったです。しかし、途中で音楽が止まってしまうというハプニングがありました。でも、みんなでリズムをとり、踊りることができました。次のよさこいソーランは成功させたいと思っていたのにまた音楽

が止まってしまいました。今度は見ている人も手拍子してくれたので、ハプニングはあったけど、いいレセプションだったと思います。

26日。とうとうお別れの時が来てしまいました。やっとたくさんしゃべれるようになったのに、帰りたくないな～と思いました。泣きながらお別れをしてパースへ出発。お昼ご飯にマクドナルドに入ったのですが、注文をなかなか聞き取ってもらえず大変でした。買い物は時間が少なく、走り回っていました。パースでの観光も終わってしまい、パース国際空港へ。シンガポールでもたくさん買い物をしました。とうとうチャンギ空港を飛び立ってしまい、「ずっとおりたかったな。帰りたくないな。」と思いました。

自分から行きたい！！とって申し込んだ海外派遣事業。思っていた以上に楽しく素晴らしい時間を過ごすことができました。これも、向こうで通訳してくれた松崎さん（通称まっちゃん）、日本旅行の福岡さん（通称福井さん）、引率の方々、行かせてくれた両親、向こうで一緒にはしゃいだ11名の派遣生、ホストファミリーの方々などたくさんの方が協力してくれたお陰だと思っています。また、初めはあまりしゃべらなかつた稲中の子とも仲良くなれて、本当にいい企画だと思っています。この経験を今後役に立て、機会があれば必ずもう一度オーストラリアに行きたいです。ありがとうございました。

I remember this week . Thank you very much!!!

保護者の目から見た派遣事業

中学生海外派遣事業に参加させて

水田 克美

「どうしてもオーストラリアに行きたい」と言う娘の強い要望があり、この度参加させて頂きました。親としては、3年生のこの時期に、事前研修を含めたくさんの時間を費やすことに少し不安はありましたが、この時期にしかできない、この時期だからこそ得られることの大きさを考え送り出すことにしました。

参加できることが決まりますと、親の心配など全く気にせず事前研修や打ち合わせに張り切っておりました。現地では急遽ホームステイ先が変更になるなどのアクシデントもありましたが、のびのびとした環境の中で育った子どもたちとのふれあいや、たくさんの人との出会いの中で、生活習慣や文化の違いなど肌で感じてきたことと思います。

この貴重な経験で得たことをこれから先の生活に上手く活かし、将来のことを考える上での良い転機になればと思っております。そして、オーストラリアだけでなく、他の国にも関心を持ち、当たり前になってしまっているこの平和な日本で過ごせることのありがたさを感じてほしいと思います。

最後になりましたが、稲美町国際交流協会をはじめ、携わって下さったみなさま、お世話になりました。ありがとうございました。



オーストラリアで！！

米村 葉月



私は、中学生海外派遣事業というものを少し前から知っていて、せっかくだから行ってみたいと思って応募してみると、面接や作文があって、落ちたら嫌だなぁ・・・と思いながら頑張りました。結果は合格と知ったとき、とても嬉しかったです。

参加者が決まってから、出し物、英会話の練習などをがんばりました。

結団式のときに、いろいろ不安があったけど、不安より楽しそう！！という気持ちの方が勝っていました。

1日目は、朝早くに役場まで送ってもらって、バスに乗ったときから、みんなテンションがとても高かったです。関空についてからけっこう忙しくて疲れたけど、飛行機の中が楽しかったから疲れもふっ飛びました。関空からチャンギ空港まで5時間半ぐらいかかって、着いたのが16時35分ぐらいでした。チャンギ空港ではお金の使い方がよくわからなくて大変でした。3時間ほどしてから、飛行機に乗ってパース国際空港へ向かいました。楽しくて全然眠たくありませんでした。空港に着いたのが24時頃で、そこからホテルに向かうバスで少し寝ました。

ホテルに着いているいろいろしたりしていると、時間が過ぎてしまってその日は寝れませんでした。朝一番の時間で朝ごはんを食べて少し寝て、小川所長さんの話を聞かせてもらい

ました。とてもいい話が聞けました。

話を聞かせてもらったあと、ファームに行きました。昼食を食べさせてもらって、稲美北の看板を造りました。結構難しかったけど、いい看板ができました。他にも、牛の乳しぼりや、エミュにえさをあげたりしました。夜はキャンプファイヤーをしたり、星を見たりしました。オーストラリアから見た夜空はプラネタリウムみたいでした。

3日目の昼からは、スワン市役所へ行ってホストファミリーと初めて会いました。家に向かう車の中では、がんばって英語を使ってしゃべってみました。夜はゲームをして、一緒に遊びました。

4日目は買い物に連れて行ってもらいました。あめ、ストラップ、プリクラ、ジュース、お土産を買ったりしました。とても楽しかったです。お金の使い方がわからなくて困っていると、レジの人が日本人で教えてくれました。夜はディナーに連れて行ってもらいました。とてもいい日でした！！

5日目は、朝からコアラと洞窟を見に行きました。洞窟は日本の秋芳洞みたいでした。昼はバーベキューをしました。とてもおいしかったです！！夜はお姉さん2人とお兄さんで、ボーリングをしに行きました。その後に夜景を見に連れて行ってもらいました。夜景は日本では見られないほどキレイでした。

6日目は、ガバナースターリン高校を訪問して、みかぐら、よさこいを披露しました。その後に、いろんな動物を見たりしました。カンガルーにえさをあげたり、コアラを触ったりしました。ヤギの赤ちゃんに指を噛まれてビックリしました。

3時頃、お父さんと、お姉さんが迎えに来てくれて、そのまま海へ行きました。日本の海に比べると、オーストラリアの海はとてもキレイで絵の具の水色そのままの色でした。

夜は、レセプションで出し物をしたり、いろんな事をしました。

7日目は、ホストファミリーとお別れでとても悲しかったです。来年も絶対来て！と言われて、絶対行きます！！って言うとお別れしました。お別れをした後は、パースで買い物をして、飛行機で帰ってきました。チャンギ空港を1時に出たので眠たかったです。

帰ってきたとき、またオーストラリアに行きたい！！と思いました。

保護者の目から見た派遣事業

すばらしい思い出

米村 千景

派遣事業に参加させたことによって、子供がすごく成長していたことに気付きました。当日までは親の方がいろいろと心配していましたが、本人はなんの不安も感じることなく笑顔で出発していったのを見て、いつの間にか大人になったんだと感じました。

オーストラリアに着いてからは楽しいことばかりで、言葉や文化など、様々なちがいに困ることなく生活をしていたようです。言葉については伝えようとする気持ち、それをわかろうとする気持ちで意思の疎通ができたようです。子供たちもコミュニケーションがどんなに大切なことが、よくわかったと思います。それと、温かく迎えてくださったホストファミリーの方には感謝の気持ちでいっぱいになりました。さまざまな観光地に連れていただいたり、レストランでの食事、バーベキューと心に残る思い出がたくさんできたようです。

写真を見てもすごく楽しそうで、本当に参加させてよかったと思いました。今後もたくさんのお子もたちに参加してもらって、いろいろな事を楽しく学んでほしいです。



オーストラリアで学んだこと

山本 航平



ぼくはこの海外派遣事業に参加するにあたって、1つ大きな目標を立てていました。それは、「英語が上達できるようになる」ということではありません。ぼくの目標は、「言葉は通じなくても、心とところでコミュニケーションをとれるようになる」というものです。事前研修のときから、なかなか英語が話せないし、たとえ話せたとしても発音が違っていたりしました。でも必死に何か伝えようとすると、みんなも少しわかってくれるような気がして、とてもうれしかったです。だからこの素敵な能力を伸ばせるようになりたいと思いました。

そしていよいよ出発の日がやってきました。前日は緊張してあまり眠れませんでした。でも出発の喜びで、その日は朝から体調も気分もとてもよかったです。そして、見送りに来てくれた家族と別れ、バスは出発しました。

バスの中では、喜びや緊張、不安などで、とても複雑な気分でした。だからどんな様子だったか全然覚えていません。気が付いたら関西国際空港に着いていました。関空はキレイで、とても広くてかなりドキドキしました。今から外国に行くのかと思うと、落ち着いていられませんでした。そして飛行機に乗りました。飛行機の中ではずっとゲームをしていたので、すぐにチャンギ空港へ着きました。

ぼくはそこで初めての事に挑戦しました。それは、買い物です。のどが乾いていたのでジュースを買いました。とても緊張していたので何と言って買ったかは覚えていないけど、

ジュースがとてもマズかった事を覚えています。その後、もう一度、次はおやつを買いました。店員に言われたことが全然わからず、かなり焦りました。でも近くにいた知らない人がわかりやすく説明してくれたのでよかったです。そしていよいよオーストラリアに向けて出発しました。

オーストラリアに着いたのは真夜中のことです。飛行機の中では寝てなかったので、眠たくて着いたという感動を味わえませんでした。次の日の朝、ファームに向かって出発しました。ファームではオーストラリアの大自然を眺めました。日本では見られない景色だろうと思いました。ファームで過ごした2日間は、稲美から来たという印の木をつくったり、キャンプファイヤーをしてとても楽しかったです。

一番緊張したのはスワン市役所へ行って、ホストファミリーと対面したときです。自分の名前が呼ばれたとき、ジェイミーが迎えに来てくれました。そして握手をしました。そのときに、言葉は少ししか話さなかったけど、しっかり相手の気持ちがわかったし、こっちの気持ちも伝わったような気がしました。

ホームステイが始まりました。始めはどんなことを話すといいのか全くわからず、「ハングリー」とか「スリーピー」ぐらいしか言えませんでした。でも、一緒にご飯を食べているときには、食べ物好き嫌いの話をしたり、テレビを見ているときには、オリンピックやフットボールの話で盛り上がりました。ホストファミリーの人たちはみんなとても優しく、朝、寝坊をしても笑顔であいさつをしてくれるし、夜には、「今日は楽しかったですか」と聞いてくれました。そして作ってくれる手料理も本当においしかったです。

楽しい時間は早いもので、もう帰国する日がやってきました。楽しい毎日だったので、その分、別れは本当に寂しかったです。でも、「シーユーアゲン」と言って握手をしたとき、お互いの気持ちが全て伝わったような気がしました。これぞまさに、出発前に立てた目標である「心とこころのコミュニケーション」だと実感しました。この企画に参加して本当によかったと思いました。

そして、たくさんのお土産を心に、オーストラリアを飛び立ちました。

保護者の目から見た派遣事業

中学生海外派遣事業に参加させての感想

山本 謙司

今回、次男が海外派遣事業に参加させていただきました。

一昨年、長男も参加させていただき、本人は当然のこと、親としても感謝の気持ちで一杯で、次男にもぜひこの機会を与えたいと思っていました。

英語を話せるようになるとか、オーストラリアの文化を学ぶとか、勉強が目的ではなく、稲美町の中学生の代表としてしっかり活動してきてほしいと思っておりました。

遊びに行くのではないのに、準備はのんびりして、前日の夜にやっとスーツケースに詰め込み、直前まで「忘れ物ないか?」「パスポートなくさないように!」とお決まりの言葉をかけ送り出しました。

日々のスケジュールがわかっており、毎日メールで連絡があるので心配はないのですが、「うまく会話ができているのだろうか?」とか、「ホストファミリーに迷惑をかけていないだろうか」など気になりました。

8月27日に8日間の活動を終え帰国。感想を聞くと、「楽しかった」と一言。

撮ってきた写真を見ながら、あれやこれやと話は尽きず、夏休みのいい思い出ができたと喜んではいるものの、本来の目的である「国際交流」ができたのかどうか・・・?写真を見て話を聞く限り、うまくやってきたように思えたが・・・。

稲美町国際交流協会の事業として、毎年十数名の生徒が派遣され、交流を深めておりますが、息子たちが参加してきたことで、協会の意図する目的に少しでも役に立てたのなら幸いです。

これからもぜひ続けていただきたい事業であり、毎年中学3年生の生徒さんたちには積極的に参加されますよう願っております。

楽しい思い出だけでなく、きっと自分の将来に役立つ何かが経験できると思います。お世話になった皆様、ありがとうございました。



夢のような一週間

北谷 唯衣



私は、このオーストラリア派遣事業でいろんなことを学び、いろんなものを見たり感じたりすることができました。

オーストラリアに向かう飛行機の中では、すごくワクワク、ドキドキして、ちゃんと言葉は通じるだろうか、ホストファミリーの人たちはどんな人なんだろうとか、少し不安な気持ちもありました。長い時間飛行機に乗り、やっとオーストラリアに着いたころにはもう夜の12時を過ぎていました。その時は、周りが日本人ばかりだったからなのか、あまり外国にいるんだという感じがしませんでした。でも、次に日のファームに向かうバスの中で、昨日は真っ暗で見えなかった町の風景を見て、全てが英語で書かれていて、日本じゃなくオーストラリアにいるんだと改めて実感しました。ファームでお世話になるジョンさんの家に近づくにつれ、周りの景色が緑の草原でおおわれていました。その中を馬や牛や羊などの動物がたくさんいるのを見て、皆でキャーキャーさわいでいました。

ファームでは、本当に何もかもがキレイで、ハイジになった気分でした。夜になると、すごいたくさんの星が光っていました。日本では見られない星座も見ることができました。2日間という、本当に短い期間だったけれど、大自然の中でいろんな動物とふれあい生活できたことはとてもいい体験でした。

すばらしい自然を味わえた後は、私が一番楽しみにしていたホストファミリーとの対面

でした。私のホストファミリーの方は16歳と18歳の美人姉妹とそのお父さんお母さん、お姉ちゃんの旦那さんの5人家族ですごく温かい人たちでした。私は友達と2人でのホームステイだったので、そんなに緊張はしませんでした。対面したその日は、夜に妹さんのケイティーとお父さんがパース市でも有名な「キングスパーク」と「スワンベルタワー」に連れて行ってくれました。夜景がすごくキレイで、ファームで見た星空みたいでした。夜ご飯は、ケイティーと一緒に手作りしたピザでした。日本は夏だったけれど、オーストラリアは冬だったので朝と夜はすごく寒かったです。

2日目は朝からケイティーとケイティーの友達2人とパース市内でショッピングをしました。プリクラをとったり、ゲームをしたり、お土産なども買いました。女の子のお店やファッション店にもたくさん入り、お昼は私達のために日本食店に入ってくれました。とても楽しかったです。

家に帰ってくると、お姉ちゃんのケイシーと旦那さんのケイスがパーティーに行く準備をしていました。ケイシーはドレスを着ていて、すごくキレイでした。その後はお父さんとお母さんとケイティーと私達で外食しました。お母さんがすごくメニューをたくさん頼んでくれて、どれもおいしくいただきました。

3日目は遠い所までコアラを見に連れて行ってくれました。それに洞窟も見せてくれました。お昼はお家で、おばあちゃん、おじいちゃんも呼んで家族みんなでバーベキューをしてくれました。お肉が大きくてビックリしました。夜は、ケイティーとケイシー、ケイスがボーリングに連れて行ってきて、パースの夜景がすごくきれいに見える所にも連れて行ってくれました。とてもうれしかったです。

4日目は高校の見学で、日本の学校とは全然違うのでびっくりしました。動物園にも行き、いろんな動物たちとふれあうことができました。お家に帰るとお父さんとケイティーとケイシーがビーチにつれて行ってくれました。本当にキレイで言葉では言い表せないくらいうれしかったです。お別れはすごくさみしかったけど、この一週間、オーストラリアのパースですごした時間は一生忘れません。本当に私にとって夢のような時間でした。

保護者の目から見た派遣事業

中学生海外派遣事業に参加させての感想

北谷 有貴子

この度、オーストラリアへ派遣生として参加させて頂き本当にありがとうございました。帰って来てから、オーストラリアでの8日間を振り返って話をしている娘が少し成長したように思いました。オーストラリアでのスケールの違う大自然の中で、たくさんの動物たちとふれ合う事ができ、ホストファミリーの家族の方々にはいつも笑顔であたたかく接していただき、娘共々本当に感謝しています。

又、この交流を通して稲美町の良き文化を伝える事ができたと同時に、再確認する事ができたように思います。オーストラリアでの海外派遣事業で経験し、学んだ8日間は娘にとって素晴らしい財産になりました。

そして海外にすごく興味を持つようにもなり、これからの人生の大きな糧になりました。参加させて本当に良かったです。ありがとうございました。



初めての海外

岡田 凌



初日、ぼくは生まれて初めて飛行機に乗りました。関西国際空港に着いて、飛行機の乗るための検査をしました。

なにかいろいろなことをしてよくわからなかったけど、金属類の検査が一番ドキドキしました。検査が終わって飛行機に乗ってシンガポールへ出発しました。

飛行機が離陸するとき、とても気持ち悪くなったり、耳が痛くなりました。飛行機の中に、小さいテレビがあったのでとてもびっくりしました。それと、絶対に日本人だと思っていた客室乗務員の方が英語で話しかけてきたのでとてもびっくりしました。

シンガポールの空港はとても広くてきれいな所でした。でも、ライフルを持っている人がいたので少し怖かったです。オーストラリアに着いたのは夜中だったので、ホテルに行ってすぐに寝ました。

2日目はファームに行きました。ファームはとても広くて緑が多く、たくさんの動物がいて日本では考えられないような場所でした。ファームは夜になると、とてもきれいに星が見えました。日本では見られないような星も見えたのでよかったです。

3日目の朝、前の日に、明日は7時45分から朝食を始めるといわれていたのに寝坊してしまいました。福岡さんが「ジョンがかんかんやぞ！」と言いながら起こしに来てくれました。この日は、ホストファミリーと対面する日だったのでファームでの時間がとても

短かったです。

バスでパース市の市役所に行くときはすこし緊張しました。でも、いざホストファミリーの人に会ってしまったら、緊張するどころかこれから3日間がとても楽しみになってきました。

4日目は3つのホストファミリーの家族と一緒に遊びにいきました。いろいろな場所に行けてとても楽しかったです。

5日目はホストファミリーの家族でドライブに行きました。海がとてもきれいでした。でも、冬なのに海に入っている人がいたのでとても元気だなと思いました。

6日目はガバナースターリン高校に行きました。学校でお菓子を食べていたから日本の学校とは全然違うなと思いました。

学校見学の後、動物園に行きました。コアラやカンガルー、日本にはいないような動物がたくさん見られたのでとても楽しかったです。夜のレセプションでは、みかぐらとよさこいソーランの時、テープが止まってしまうというハプニングがあったけど、なんとか成功したのでよかったです。

7日目のホストファミリーと別れる時はちょっと寂しかったです。ホストファミリーと過ごした時間は、長かったようでとても短かったです。それに、難しい英語はわかりやすく話してくれたし、いろいろなところでホストファミリーの人は助けてくれたので、とても助かりました。ぼくは、ホストファミリーとすごしてとてもみんな親切だと思いました。

ぼくは今回の海外派遣事業に参加して、とてもよかったと思います。ぼくは人と話すことがあまり得意ではなかったけど、今回オーストラリアに行って自分自身少し変わることができたと思います。だから、これからこの経験を活かして、外国の人とも積極的に話しをしていきたいと思います。

中学生海外派遣事業に参加させて

岡田 茂之

「俺も絶対オーストラリアに行くし！！」と一方的に夢を膨らませたのは遡る事2年前。長女がこの中学生海外派遣事業に参加させて頂き、とても楽しく貴重な経験をさせてもらった時からでした。そして息子も中3となり、念願の派遣生の一員となる事が出来ました。事前研修や準備等は2年前に経験したせいか、特に戸惑う事は無かったのですが、親としては気がかりな事が1つだけありました。

夏休みに入って間もなく肘の手術を行う事が決まっており、当初は親も本人も簡単な手術で終わるであろうと考えていたのですが、実際は大掛かりな手術となり、出発までに退院はできたものの肘と膝は不自然な状態で、これでは旅行中、他の派遣生や引率者の方々に迷惑を掛けてしまうのではないかと、本人も言葉の通じない外国で不安ではないだろうかと思っていました。

しかし、帰国後話を聞いてみると、ホームステイ受け入れ先がホストファミリーの都合により急にキャンセルになるというアクシデントがあったようですが、別のホストファミリーの方が快く受け入れて下さり楽しく過ごせたそうです。それから、2年前娘がお世話になったホストファミリーが今回も受け入れをしていた様で、息子が思い切って声を掛けてみると、娘の事も良く覚えていて下さり、現地では一緒に買い物へ出かけたり遊んだりしたそうです。

それと、私達夫婦の不安材料でもあった肘・膝の事を息子に聞いてみたのですが、「向こうで皆でバスケットして遊んだわ！」と耳を疑いたくなる様な返事でしたが、かえってそれが良いリハビリになった様で、帰国後リハビリの先生も驚く程状態が良くなっていました。

旅先では他の派遣生の皆さんに助けってもらったと聞き、大変感謝する次第です。14才、初めての海外旅行。息子に感想を聞いてみると、「飛行機はしんどかったけど、又行きたい！オーストラリアはとても楽しかった。」との返事がかえってきました。

中学3年生の夏休み。仲間と過ごした8日間は息子にとって忘れる事のない貴重な体験になったと思います。

最後になりましたが、この中学生海外派遣事業関係者の皆様方に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



私は、この中学生海外派遣事業に参加することができてよかったと思います。オーストラリアでの8日間は一生忘れることのないとても良い思い出になりました。

飛行機に乗るのは今回が初めてで、いろいろ不安もあったけど、上からの景色を見てそんな不安もなくなっていきました。

ファームステイでは、『INAKITA 2008』と書いてある看板を立てたりしました。トランポリンはとても弾むので、頭を打ちそうで大変だったけど楽しかったです。

いよいよホストファミリーとの出会い！私のホームステイ先のニキータにはいろいろな場所に連れていってもらいました。とても親切にしてくれたのですぐに仲良くなれました。

家に着いた時、とてもびっくりしました。それは、言葉では言えないくらい広がったからです。家の門から車で3分ぐらい走ってやっと家に着きました。馬や羊などいろんな動物がいて、ファームステイの気分でした。

ホームステイ先の人たちは、私たちに気を遣っているなことを聞いてくれました。私は英語が通じなくても、あきらめずに身ぶり手ぶりで通じるまでやってみようと思っていました。ホストファミリーの人たちは、私たちの簡単な単語だけの文を熱心に聞いてくれて、返事をしてくれたときは通じた！と言う気持ちでとてもうれしくなりました。

私たちが分からない単語などは、辞書を使っていねいに教えてくれました。この家の

物はいつでも自由に使ってねと言われてホームステイが楽しみになりました。お父さんがいっぱい質問してくれました。1日目で家族みんなと仲良くなれました。日曜日にポニーに乗せてあげると言われてうれしかったです。

ホームステイ2日目はショッピングと海に行きました。ニキータの友人と行くと聞いていたので、正直ドキドキしていたけど、会ってみると一緒に海外派遣に来ていた人たちのホストファミリー先だったのでちょっと安心しました。建物とかは本当にきれいでした。そして海に行きました。冬なのに浜で焼いている人が6人ぐらいいました。とても楽しい日でした。

ホームステイ3日目は、ニキータの家族の友人の家でオリンピックパーティーがありました。そこで馬に乗りました。その家に来ていた多くの子供たちとも仲良くなれて、オーストラリアのゲームを教えてもらいました。一番びっくりしたのは、あたりまえだけど小さい子が英語ペラペラだったことです。

ホームステイ4日目は、いよいよレセプションの日でした。食事のあとの私たちの出し物は、2つとも曲が止まってしまうというハプニングがありましたが、みんなで歌いながら最後までできたのでとてもいいものになったと思います。とても大きな拍手をもらえたときは、この2つの出し物をやってよかったと思いました。

最終日。ホストファミリーとのお別れはとても悲しかったです。最後の日、ニキータは病気で来られなかったけど、お母さんが最後まで見送ってくれました。とても楽しかったので、もっとここにいたい！という気持ちでいっぱいでした。また会えることはないかも知れないけど、また会おうねと言ってくれたホストファミリーの人たちと別れるのはとても辛かったです。でも出会えて本当によかったなと思いました。

この8日間を通して、オーストラリアでいろいろな人に出会えてとてもいい経験ができたと思います。ここで学んだことを今後も活かしていきたいです。このような機会を与えてくださったことに感謝したいです。そしてもっともっと英語を勉強してまた海外へ行きたいです。

中学生海外派遣事業に参加させて

平田 千春

今回、中学生海外派遣事業に参加させて頂き、子どもにとっても親にとっても貴重な夏になりました。

子どもがこの海外派遣に参加したいと言った時は、正直親の方が躊躇していました。でも参加させて何かが変わる、日本では体験できない何かがあると思い参加させる事にしました。

バタバタとしているうちに夏休みも後半。いざ出発当日の朝、スーツケースの鍵が閉まらずに慌てている私の横で、子どもは言いました。「ベルトしてたら大丈夫やる。」そのままの出発になりましたが、子どもはスーツケースのことなど気にせずに行きました。親の方も、後から考えるとあれぐらい度胸がすわっていれば大丈夫と思いました。

後のメールで無事に全員着きましたというのを見た時はホッとしました。小さな事でよくよしない性格が良い方に転んだんだと思いました。

1週間はあっという間に過ぎました。帰ってきた子どもの第一声は「あと1年はおりたかった」でした。それを聞いた時は、行かせてよかったと思い、うれしくなりました。

今回とても貴重な体験ができてことをうれしく語る子どもを見て、何かが変わったんだなと思い、成長の跡が見られたように思います。

最後になりましたが、この海外派遣事業においてお世話になりました方々に深くお礼申し上げます。ありがとうございました。

今だから言えるとおきのエピソード

ホームステイ先にゴミ箱がなかった。

「炭酸じゃない飲み物を下さい」と言ったら毎日アプリコットジュースになった。

ホームステイ中に知らない家の女の子と仲良くなった！！

フットボールのルールを覚えてしまっている自分がいた。

知らない人とフレンドリー過ぎるッ！！

キッチンに 7 個も時計があった・・・けど全部時間がズレていて、どれが本当かわからなかった・・・。

車に乗るとすぐ寝てしまう・・・なぜだ？

夜になると、ものすごい数のネコがやって来る！！・・・一体どこのネコなんだ？

ホームステイ先のシャワーが、なかなかお湯が出なくて困った。

ホストファミリーと電車に乗っていると、知らない人にも友達のようにホストファミリーが話していた。

サングラスを売っている店がたくさんあった。(かけている人もとても多かった。)

最後の日。ホストファミリーから、写真と手紙をもらった。別れるのがとてもつらくなった。

ビーチに行ってみると、冬のはずなのに海に入っている人がたくさんいて、とてもおどろいた。

ホームステイの家は炭水化物やコーラ、油っこいものばかりで、家に帰ったらにきびができた(泣)

カバナスターリン高校に行ったとき、学生にラチられて別の部屋で 5~10 分ぐらい「デスノート」のアニメを見ていた。

ホームステイ先には、猫が 10 匹ぐらいいいた。

オーストラリアでは、日本のアニメがはやっているみたいだった。ホームステイ先の人の友達の家に行ったら、DVD がいっぱい並んでいた。

ファームのトランポリンは、誰かがこけているときにとんだら危険！！下手したら、ふちで頭をうつ。実際、頭を打ってめっちゃ痛かった。

カンガルーの肉はおいしかった。

ホームステイした家に馬や羊がいた。

空港の写真を撮ったらダメな所で撮ってしまった。

シンガポールの空港で 2 階に行っておこられた。

ファームでジョンに、頭にかかと落としされた。

ファームで 4 人の部屋だけエアコンがなかった。

ホームステイで洗濯してもらえなかった。

先生に貸してもらった本で助かった。

帰りの飛行機でゲームをずっとした。

帰りの飛行機で 3 席隣りまで空いてて、寝転んで寝た。

日本についたとき、トイレに行ったらかばんを忘れてた。
ガイドの福岡さんにオーストラリアの旗もらった。
毎日コーラばかりはきついなあー！
寝ようと思ってベッドへ行くと猫が寝ていた。かなりビックリ！
家の中で靴を履いておくのか、脱ぐのか、かなり迷いました。
ショッピングに行くとき、裸足で行くのにはビックリした。
めっちゃ楽しかった！！
夜景がとてもキレイだった
砂浜が真っ白で、海が水色でキレイだった！！
ヤギに噛まれた。
ホームステイ先の家に噴水があった！
Johnさんの土地がとても広がった！！！（ Farm）
オーストラリアの人はボーリングが上手！
オーストラリアのカラスは鳴き声が日本のカラスと違う！
ペプシとオレンジジュースを飲ましてもらった
冬でも紫外線が強いから、サングラスをしている人が多かった！
星がめっちゃ多くてキレイだった
思っていたより英語を話せたし、理解できた！！
もう1回行きたい！！
初めて外国で買い物したのはジュース。それがあまりにもマズすぎてかなりビビる。
あれは一生買わん。
コアラはパンダ並みに大きい動物かと思っていたのに想像以上に小さくて、一瞬どれ
がコアラかわからなかった。
どこでも「晴れ(?)男」が一緒だったので毎日が快晴でした。ありがとう。
オーストラリアのいたる所で大きな蛾を発見。怖い。
チャンギ空港で買い物したとき、1000円出したらシンガポールドルでおつりを渡され
て困った。
ホストファミリーの方には本当にいろんな所に連れて行ってもらったので、思い出が
いっぱいです。
夜にキングスパークに連れていってもらった時はすごく夜景がキレイでした。
最後に連れて行ってもらったビーチでは、あまりのキレイさにくつをぬいで、海に入
ってすごくはしゃいでしまいました。
本当に楽しかったです。
機内食がまずかった。
冬なのに海に入っていた。
家がでかい！
寝るのが早い。
ファームのトランポリンはいつか破れそうで怖かった。
ファームでやった、みかぐらとよさこい・・・せまかった

ホストファミリーと初対面の時、パパがめっちゃこわそうやったけど、めっちゃやさしい人やった。

『明日ショッピングに友達と行くから！』って言われて集まった日本人は5人！！オーストラリアの感じがしなかった。

車でかかっていた曲が、いまだに頭から離れない・・・。

ビーチで焼いている人がいた。まだ冬やのに・・・。

冬やのにタンクトップに短パン！！寒くないんかな??

オーストラリアの人は電車内のテンションがめっちゃ高い。ついていけないよ～。

カンガルーのお肉を食べた！！案外おいしい！

オリンピックパーティーに参加した。閉会式見るだけやのにパーティー・・・。

機内食はおいしくないよ・・・。

まっちゃんと福岡さんはおもしろい人たちやった。お世話になりました。